

専門学科・総合学科選抜入試 小論文サンプル問題

→ サンプル問題① 次の文章を読み、問いに答えなさい。

これまで長いこと、私たちの社会では「問題を解決できる人＝プロBLEMソルバー」が高く評価されてきた。原始時代以来、私たちの社会は常に多くの「不満」「不安」「不便」という「問題」に苛まれており、これを解決することが大きな富の創出につながったからである。

(中略)

ビジネスは基本的に「問題の発見」と「問題の解消」を組み合わせることによって富を生み出している。過去の社会において「問題」がたくさんあったということは、ビジネスの規模を規定するボトルネックが「問題の解消」にあったということである。だからこそ20世紀後半の数十年間という長いあいだ「問題を解ける人」「正解を出せる人」は労働市場で高く評価され、高水準の報酬を得ることが可能であった。

しかしすでに説明した通り、このボトルネックの関係は、今日では逆転しつつある。つまり「問題が希少」で「解決能力が過剰」になっているということである。ビジネスが「問題の発見」と「問題の解決」という組み合わせで成り立っているのであれば、今後のビジネスではボトルネックとなる「問題」をいかにして発見し提起するのがカギになる。そして、この「問題を見出し、他者に提起する人」こそがニュータイプとして高く評価されることになるであろう。

一方で、過剰である「問題の解決」に対しては今後、これまでのような評価も報酬も与えられないということになる。つまり、これまで高く評価されてきた「問題解決者＝プロBLEMソルバー」はオールドタイプとして急速に価値を失っていくことになる、ということである。

(中略)

私たちは「ありたい姿」のことをビジョンと表現するが、つまり「問題が足りない」というのは「ビジョンが不足している」というのと同じことなのである。

これは企業経営にしても国家運営にしても地域コミュニティの存続にしても同様である。取り組むべき問題＝アジェンダの明確化は国の、あるいは企業の、あるいは地域コミュニティの「あるべき姿＝ビジョン」が明確になって初めて可能になる。問題を生み出すことができないというのは、要するに「あるべき姿＝ビジョン」が不足している、ということである。

これを言い換えればつまり、ニュータイプとは、常に自分なりの「あるべき理想像」を思い描いている人のことだということになる。ニュータイプは、自分なりの理想像を構築することで、目の前の現実とそのような構想とを見比べ、そこにギャップを見出すことで問題を発見していくのである。

出典：出口周『ニュータイプの時代―新時代を生き抜く24の思考・行動模式』、ダイヤモンド社、2019年より一部抜粋。出題のため、一部改変。

問Ⅰ 本文を要約しなさい。(300字以内)

問Ⅱ 筆者は、現代において価値の源泉は「問題の解決」から「問題の発見」へとシフトしていると述べています。この筆者の意見に対して、あなたはどうか考えるか。これまでの生活から具体的な経験を挙げながら述べなさい。(500字以内)

→ サンプル問題② 次の文章を読み、問いに答えなさい。

葬儀や婚礼だけでなく、我が国の組織や集団においては似たような形ですべてが進行して行くのである。まず葬儀や婚礼の主体となる家族は「世間」とどのような関係を結んでいるのかを見てみよう。

我が国の家族の中で「世間」が話題になるのはまずは子供の進路をめぐる話題からである。子供が高校から大学に進学する頃、家族の間で様々な話が行われる。子供は東京か近畿の大学への進学を希望するが多いし、そういう場合の例を考えてみると、親は経費を考えて、地元の国立大学への進学を勧める。そこで子供との意見の対立が起こる場合も多い。特に子供がピアニストになりたいとか、カーレーサーになりたいという希望をもっている場合は事態は簡単ではない。親は地方大学でも国立であるから授業料は相対的に安いし、地方公務員になって実直な生活を送ることができるという。しかし子供は大会に出て暮らしてみたいという希望をもっている。

親は自分が生きてきた人生の中で自分なりの体験をし、その経験を子供に伝えたいと思っている。それは子供の頃の夢のような希望は所詮かかわぬものであり、それよりも実直な生活を志したほうがよいという実感である。しかしそのことを子供に説得できずにいるのである。親は子供の夢に対してそんなことは「世間」には通じないよといったのだが、「世間」の実態を知らない子供には理解できないのである。そしてその「世間」を解説した書物は一冊もないのである。「世間」は我が国の大人が生きて行くためにまず知らなければならない関係なのであるが、それはどんな書物にも解説されておらず、子供は大きくなる過程で自らそれを学ばねばならないのである。

子供はどのようにして大人になるのだろうか。子供はある時期に小説家になりたいとか、カーレーサーになりたいという希望を隠すようになる。大人に話しても理解されないことにやがて気づくからである。我が国の子供はこうして自分の本心を隠し、大人の前では当たり障りのない希望を述べて大人の目をごまかしてのぐことを覚えるのである。子供が本心を語れないような教育をしなければならないということは悲しいことである。それも我が国の「世間」のためである。

大人は「世間」の厳しさを身にしみて知っているために、子供に対しても頭から自分の体験に基づく教訓を押しつけようとする。大切なことは「世間」とは何かを子供と共に学ぶ中で教育することなのだが、それができずにいるのである。その理由は「世間」がいわば文字や言葉によらない知の世界であり、大人が明治以来学んできた西欧的教育では捉えられない内容をもっているためなのである。

出典：阿部勤也『「教養」とは何か』、講談社現代新書、1997年より一部抜粋。

問Ⅰ 本文を要約しなさい。(300字以内)

問Ⅱ 筆者は、子供は大きくなる過程で自ら世間というものを学ばなければならないとしている一方で、大人は自分が生きてきた人生の中での経験から世間がどういうものかを子供に教えるようにすることにも触れています。あなたは、大人のこの行動についてどう思いますか。賛成か反対かを明らかにしたうえで、これまでの生活から具体的な経験を挙げながら説明しなさい。(500字以内)

👉 形式・出題傾向・配点

形 式 1,000字程度の問題文に対して **問Ⅰ** 文章要約 (300字以内) **問Ⅱ** 意見陳述 (500字以内)

出題傾向 受験生が日常から得られる情報と関連した時事的な文章から出題することを意識している。また、**問Ⅱ** の意見陳述に関しては、具体的な経験をふまえて「自分なりの意見を論じる」パターンや「賛成・反対の立場を明確にする」パターンを想定している。

小論文配点 **問Ⅰ** 20点 + **問Ⅱ** 40点 = 合計60点

👉 小論文試験のポイント

【 **問Ⅰ** で見ていること 】

- ✔ 問題文を正しく読み取れているか
- ✔ 文章全体をバランスよくまとめられているか
- ✔ 大切なキーワードを入れて書けているか
- ✔ 内容に偏りがいないか

【 **問Ⅱ** で見ていること 】

- ✔ 課題文を理解し、要点を押さえられているか
- ✔ 自分の考えが論理的に説明できているか
- ✔ 自分の身の回りで起きた経験を踏まえた内容になっているか

全体を通しての注 意 点

十分な分量を書く

指定された文字数に近い分量を書くことが大切です。内容を具体的に示し、自分の考えや理由を十分に述べることで、説得力のある文章になります。

誤字・脱字・表現に注意

漢字や言葉の使い方(話し言葉や略語などは避ける)を確認し、書き終えた後に必ず読み返すことで、正確で読みやすい文章になります。

丁寧な文字で書く

丁寧に読みやすい文字を書くことが大切です。文字が乱雑だと内容が伝わりにくくなるため、一字一字を意識して、相手に伝わる文章を心がけましょう。



小論文対策はオープンキャンパスで!

事前予約不要 来場型	全学部・学科対象 途中入退場OK
---------------	---------------------

7/12(日) 7/19(日) 8/2(日) 8/9(日) 9/6(日)

会場 阪南大学 本キャンパス

上記日程で開催するオープンキャンパスでは、専門学科・総合学科選抜入試で受験を検討している方に向けて、小論文のサンプル問題を用いた合格対策講座を開催します!ぜひオープンキャンパスで入試制度の内容や小論文のポイントを確認してください!開催時間など詳細については、右記QRコードからご確認ください。



オープンキャンパス2026
特設サイト

